Access　Manager

取扱説明書

ARTEMIS Inc.

もくじ

第 1 章 はじめに

1. 概要 …… 3
2. 特長 …… 4
3. システム環境 …… 4

第 2 章 インストール

1. インストール前の準備事項 …… 5
2. ソフトウェアのインストール …… 6

第 3 章 プログラム説明

1. プログラムの概要 …… 11
2. 基本設定及び実行 …… 12
3. Remote Manager (遠隔管理者) プログラム実行 …… 13
4. メニュー設定 …… 22
5. アイコン説明 …… 25

第 4 章 プログラム使用方法

1. ターミナル管理 …… 26
   - 1.1. ターミナル設定 …… 31
   - 1.2. 指紋センサー設定 …… 35
   - 1.3. ターミナル時間設定 …… 37
   - 1.4. ロゴダウンロード …… 38
   - 1.5. ファームウェアダウンロード …… 40
   - 1.6. ターミナルオプション設定 …… 41
   - 1.7. 同期化 …… 43

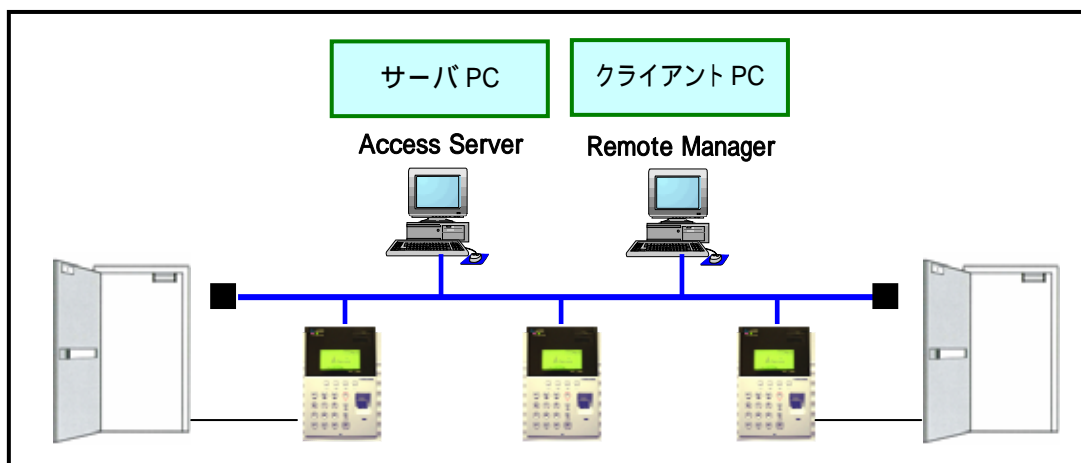
2. ユーザ管理 …… 46
   - 2.1. ユーザ登録 …… 46
   - 2.2. ユーザ削除 …… 50
   - 2.3. ユーザ検索 …… 52

3. グループ管理 …… 53
4. ログ管理 …… 57

第１章　はじめに

1. 概要

最近各種認証システムに活用されているバイオメトリクス認証システムは、高度の機密性を必要とする所だけではなく、利便性と経済性でその導入が徐々に増加してきています。様々なバイオメトリクス認証システムの中でも、指紋認証システムは、利便性だけでなく安価な製品であり、多様な形態の応用開発が可能なので、バイオメトリクス市場の大部分を占めています。

出入統制システム「*Barrier Control 2000*」は、指紋認識アルゴリズム、光学式センサ、エンベデッド設計技術、ソフトウェア応用技術など、世界的に認定されてきた技術が有機的に結合して最適化された優秀な製品です。パスワードまたは ID カードのみを使用する今までの出入統制システムと違い、パスワード忘却やカード盗用または複製などの危険がなく、利便性と機密性を同時に満足させ、また、独立的に運用されてきたターミナルをネットワークでモニタリングして総合的管理ができるよう、運営の効率性を最大限考慮して設計されました。

Access Manager は「Access Server」、「Remote Manager」、「Remote Monitor」の 3 つのソフトで構成されます。
これらを 1 台の PC にインストールしてシステム構成を完成させることや、サーバとクライアントに分けてシステムを構成することも可能です。
同一セグメント上のネットワークで、複数のターミナル(最大数 255 台)を管理することが可能です。

2. 特長

- 室外からの入室は、登録者以外の入室を規制することが可能
- 認証方法は、指紋、RFカード、パスワードで、指紋＋パスワードや指紋またはRFカードなど組合せ認証も可能(10種類の認証方法から選択)
- 入室に関するログは、付属の管理用ソフトで、誰が何時に入室したか管理することが可能
- 管理ソフトのタイムゾーン機能を使うことで、登録者ごとに入室できる時間帯の管理が可能

3. システム環境

- サーバシステム（Access Server）

区分	内容
運営体系	MS Windows 98SE/Me/2000/XP サポート (2000/XP 推奨)
CPU	Pentium III 500 MHz 以上 (Pentium4 1GHz 以上推奨)
メモリ	128MB 以上 (256MB 以上推奨)
ハードディスク	空き容量 5GB 以上
データベース	MDB (Microsoft Access)

- クライアントシステム (Remote Manager/ Remote Monitor）

区分	内容
運用体制	MS Windows 98SE/Me/2000/XP サポート
CPU	Pentium II 以上
メモリ	64MB 以上
ハードディスク	空き容量 1GB 以上

- 指紋認識機（USB Type）

管理者の指紋認証や、PCからユーザ指紋登録をする為にはオプションの指紋認識マウス(FingKeyマウス)、または指紋認識ハムスター(FingKeyスキャナ)が必要となります。

【 Fingkey マウス】

【 Fingkey スキャナ】

第2章　インストール

1. インストール前の準備事項

■ 指紋認識機（USB Type）

管理者の指紋登録やユーザの指紋登録をする場合、サーバPCもしくはクライアントPCに、オプションの指紋認識機及びドライバ(Easy Installation v1.02以上)がインストールされていなければなりません。
詳しいインストール方法は指紋認識機購入時に同封されているマニュアルを参照してください。

※ 指紋認識機 ：MFDU01(FingKeyマウス)またはHFDU01(FingKeyスキャナ)

※ 指紋認証機が接続されていなくても、ソフトウェアのインストールは可能ですが、ソフト側から指紋を登録することができません。また、ソフト起動時 (に指紋認証機が接続されているか確認のメッセージがでます。

■ サーバPC及びクライアントPC

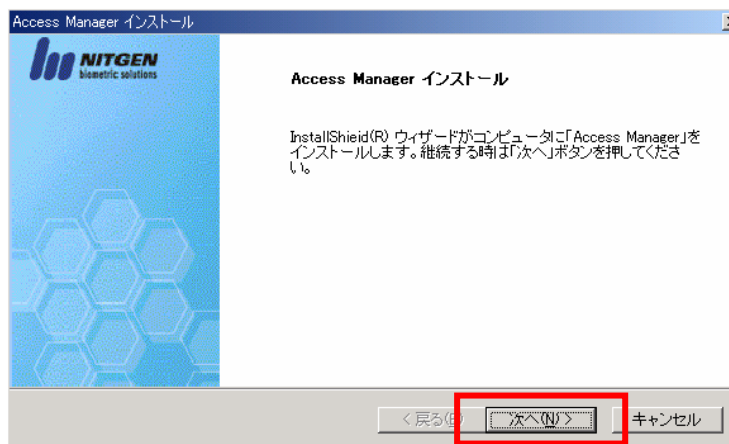
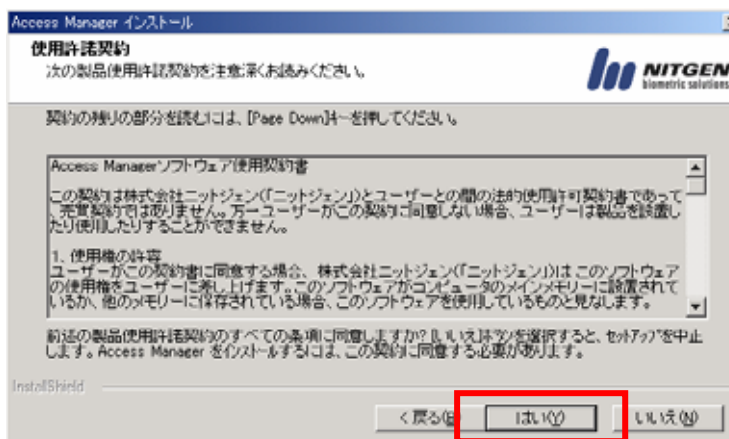
複数のターミナルを管理するサーバPCは、運用を安定させるため、出入統制管理専用として使用されることをお勧めします。

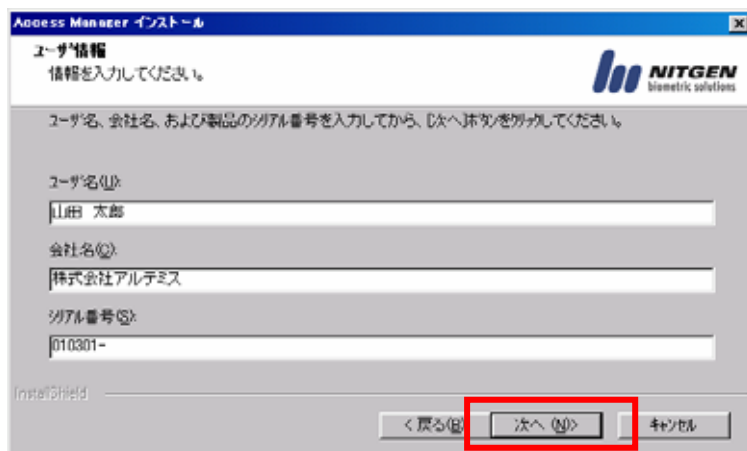
■ ネットワーク

サーバPC及びクライアントPCにはTCP/IPプロトコルがインストールされていなければなりません。また、サーバPCには固定のIPアドレスを設定する必要があります。

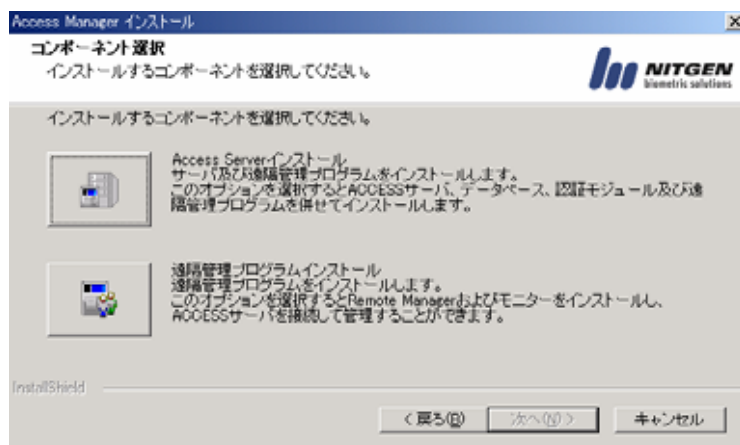
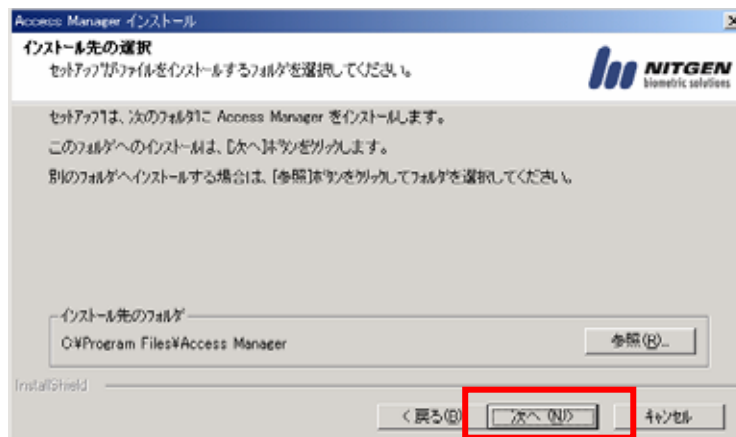
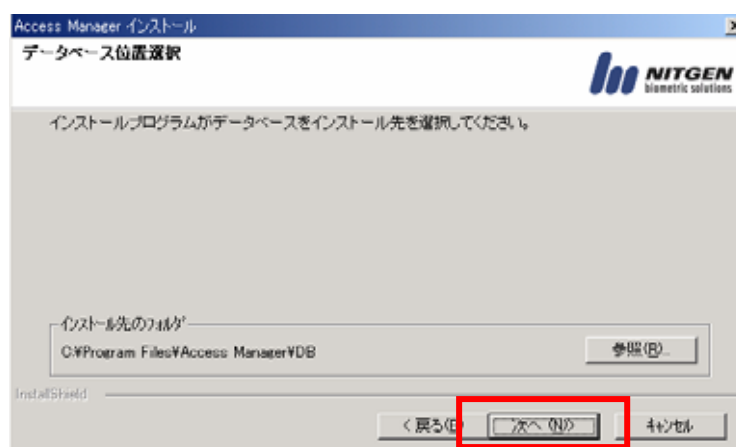
2. ソフトウェアのインストール

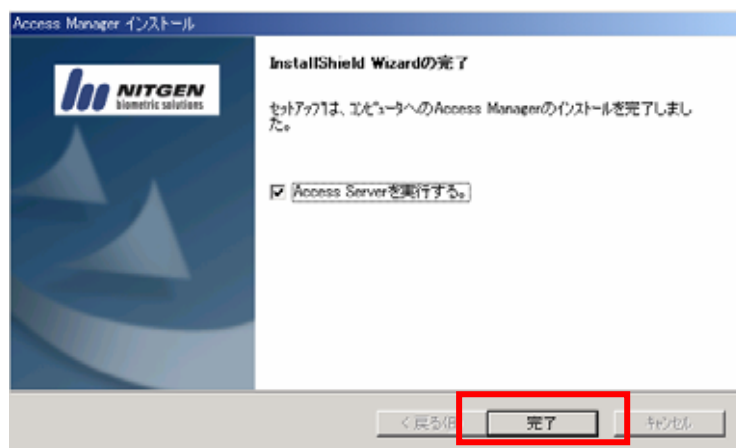
① Access ManagerのSetup.exeが格納されているCD から 「Access Manager」 フォルダを開き、「Setup.exe」をダブルクリックすると、プログラムのインストールが始まります。

② Access Managerインストーラが表示されるので「次へ(N)」をクリックしてください。

③ 使用許諾契約に同意して、インストールを続けるときは 「はい(Y)」をクリックしてください。「いいえ(N)」をクリックするとインストールがキャンセルされます。

④ 「ユーザ名」と「会社名」、「シリアル番号」を入力した後「次へ(N)」をクリックします。

※ シリアル番号はCD-ROMのケースに記載されています。

⑤ サーバPCにインストールする場合「Access Serverインストール」をクリックしてください。
クライアントPCにインストールする場合「遠隔管理プログラムインストール」をクリックしてください。

※ サーバＰＣとは、ターミナルと直接通信を行いユーザの入退室のログを保存するＰＣです。サーバPCは固定のＩＰアドレスを設定する必要がある為、同一ネットワーク内に１台、インストールをしてください。
インストールされるソフトは「Access Server」、「Remote Manager」、「Remote Monitor」です。

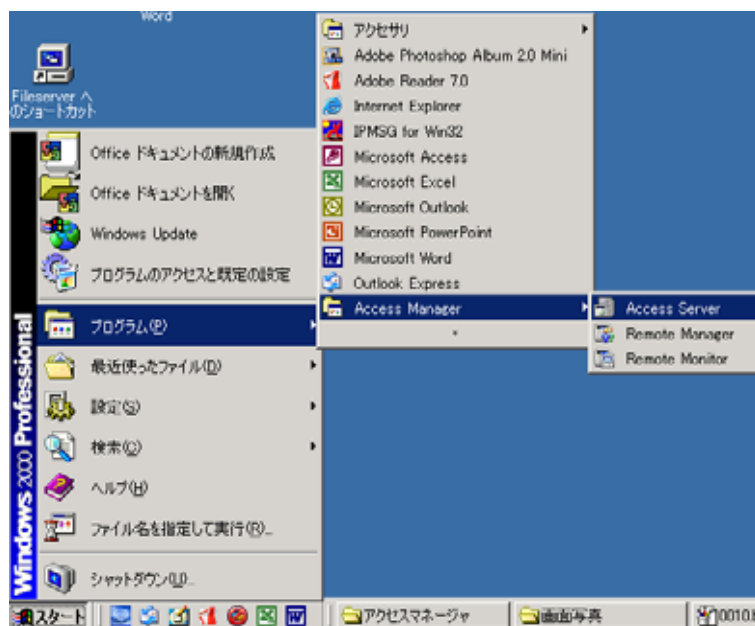
クライアントＰＣとは、サーバＰＣに登録された入退室のログを閲覧やユーザの登録やデータ更新が行えるＰＣです。
インストールされるソフトは「Remote Manager」、「Remote Monitor」です。

⑥ **「次へ(N)」をクリックするとプログラムで指定されたフォルダに「Access Manager」がインストールされます。他のフォルダにインストールするときは「参照(R)」をクリックしてフォルダを変更してください。**

⑦ **「次へ(N)」をクリックするとプログラムで指定されたフォルダにデータベースがインストールされます。別のフォルダにインストールする場合は「参照(R)」をクリックしてインストール先を変更してください。**

⑧ インストール先へ必要なファイルのコピーが開始されます。

⑨ 「完了」をクリックするとプログラムのインストールが終了します。

⑩ 「Access Server」プログラムが実行されます。

⑪ Windowsスタートメニューに「Access Manager」プログラムが追加されています。

スタートメニューに以下の 3 つのプログラムが追加されていることを確認してください。

・Access Server

・Remote Manager

・Remote Monitor

第 3 章 プログラム説明

1. プログラムの概要

出入統制管理プログラムである「Access Manager」は、サーバプログラムである 「Access Server」とクライアントプログラムである「Remote Manager」、「Remote Monitor」で構成されています。
「Remote Manager」、「Remote Monitor」は 「Access Server」と同じPCで使用することも可能です。

■ Access Server (アクセスサーバ)

「Access Server」は、ユーザDB及びイベントログDBを備えており、ターミナルの管理プログラムと通信を行い、サーバ認証モード時に指紋の認証を行います。
管理者はサーバを直接管理することはできません。
「Remote Manager」を通してアクセス及び管理が可能です。

■ Remote Manager (遠隔管理者)

サーバと接続してDBを管理することができ、またサーバとネットワークで接続されているターミナルを制御、管理する管理者プログラムです。

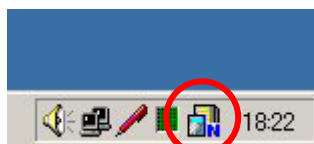
■ Remote Monitor (遠隔モニター)

サーバと接続してターミナルの状態及びイベントを、リアルタイムでモニタリングすることができます。

2. 基本設定及び実行

■ Access Serverの実行及び設定

プログラムを実行されると、進行状態を表示する画面が現れます。

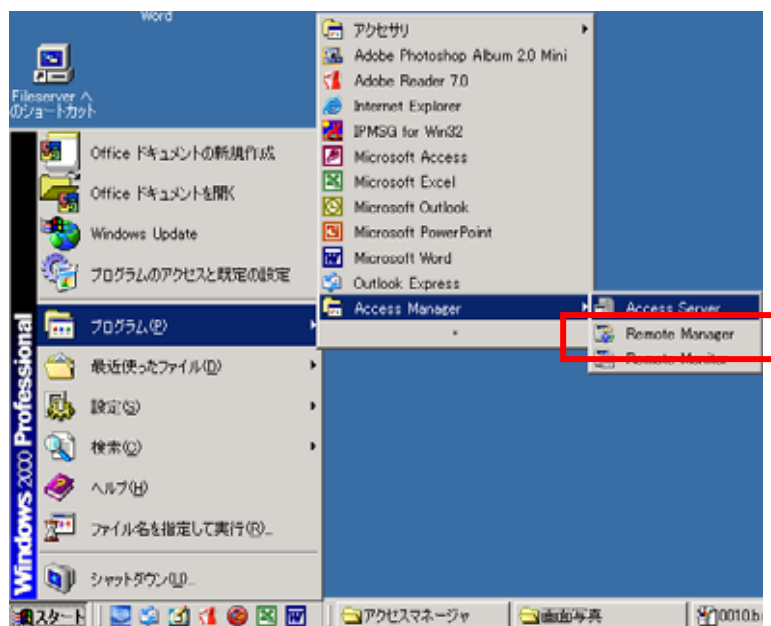
起動後には画面の右下にサーバの状態を表示するアイコンが作られます。

■ ポートの設定

遠隔管理プログラム(遠隔管理者、遠隔モニター)とターミナルが通信するためには通信ポートが一致しなければなりません。
基本設定で通信ポートは全て一致させてありますが、サーバ内通信ポートが重複する場合は通信ポートを変更した後に遠隔管理プログラムまたはターミナルのポート番号も一緒に変更してください。
画面右下のサーバアイコン上でマウスの右ボタンをクリックし、メニューからポート設定をクリックすると変更することができます。

3. Remote Manager (遠隔管理者) の実行

「Remote Manager」をサーバ内にインストールした場合、ネットワーク設定を変更する必要はありません。

 「Remote Monitor」は、「Access Server」が動作中のみ使用することができます。「Access Server」を先に実行してください。

① Windowsスタートメニューから 「Access Manager 」プログラムを実行します。

② 「Access Manager 」プログラムを初めて実行すると、「サーバ設定及び管理者登録ウィザード」ウィンドウが開きます。

● **初期設定**

初期設定の値はDBの構造上、後で変更することが困難なので慎重に設定してください。

指の最大登録数や、ユーザIDの長さを変更する場合、ターミナルに登録された全てのユーザを削除する必要があります。

- **指の最大登録数(1~2)**

  登録可能な指の数(1~2)を設定します。

- **ユーザIDの長さ(4~15)**

  4~15文字のIDの長さを設定します。

● セキュリティレベル

指紋認証をする際に、セキュリティレベルを設定する必要があります。1～9のレベルで設定し、数字が大きいほど保安性が高くなります。1:1セキュリティレベルと1：Nセキュリティレベルがあり、それぞれのセキュリティレベルを設定することでシステムの使用効率を高めることができます。一般的に1:Nのセキュリティレベルを1:1保安等級より高く設定します。

⚠ 高度の保安性が要求される場合、セキュリティレベルを高く設定しますが、この場合、ユーザの指紋の状態によっては「本人拒否率」(本人であるにもかかわらず認証に失敗する確率) が増加する可能性があります。逆に保安等級を低く設定すると「他人受諾率」(正当な権利のない人に対して認証を許可する確率) が増加する可能性がありますので注意してください。

- 1:1 セキュリティレベル(1～9)

  ユーザID入力後、指紋を入力して認証する方式の保安等級で、基本設定値は5です。1:1保安等級は、入力されたIDに該当する登録指紋と入力された指紋を1:1で比較するもので、1:N保安等級の場合よりも保安等級を多少低くしても保安性の低下はありません。

- 1:N セキュリティレベル(1～9)

  ユーザIDを入力せずに指紋のみを入力して認証する方式の保安等級で、1:1保安等級の場合よりも保安等級を多少高く設定することをお勧めします。

● パスワード化方式

ターミナルのネットワーク通信において、送受信される内容を暗号化するかどうかを設定します。

- 通信パスワード化

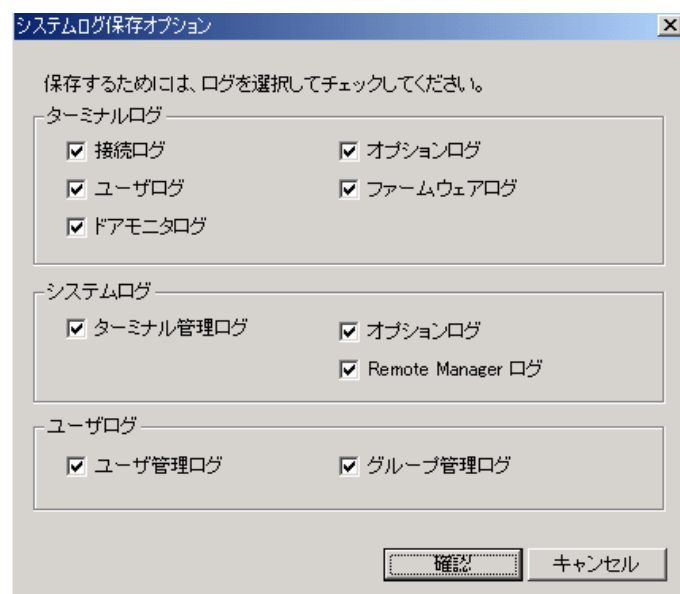
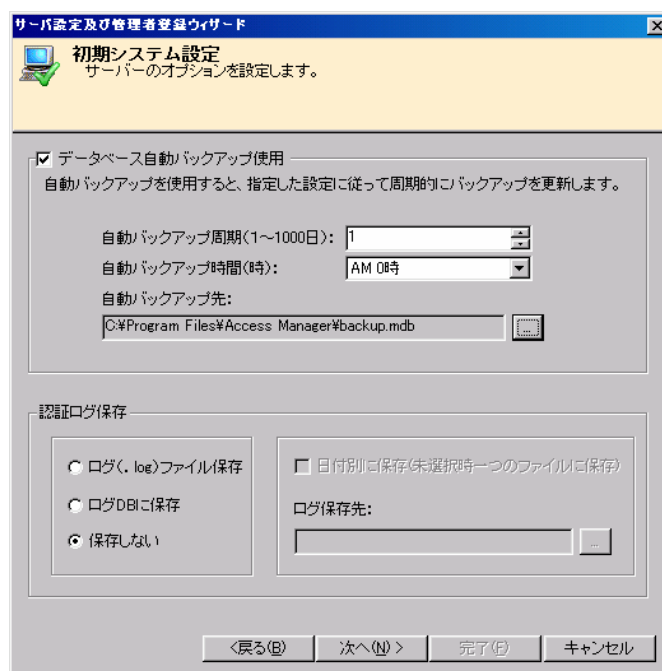
  DESで暗号化するかどうかを選択することができます。

⚠ 暗号化を使用する場合、通信内容の保安性が強化されシステムの安全性が向上する反面、通信データの暗号化及び複号化による若干の遅れが生じる可能性があります。

● **ログ保存期間制限**

ユーザ出入情報（ログ）の保存の可否、及び保存期間を選択することができます。ターミナルをネットワークに接続して使用する場合、リアルタイムにサーバにデータを送ります。
ネットワークに接続せずにターミナルを単体で使用する場合、ターミナル内に保存されます。

● **システムログ保存オプション**

システムログ保存オプションを使って、システムログの保存設定ができます。
システムログは、基本的には全て保存できるようになっていますが、システムの容量を考慮して必要なログだけを保存するように選択することをお勧めします。

③ 初期システム設定を継続するために「次へ(N)」 をクリックすると設定ウィンドウが開きます。

● **データベース自動バックアップ使用**

DBを定期的に自動バックアップすることができます。

日単位でバックアップ周期設定及びバックアップ時刻を設定することができ、バックアップ先も指定することができます。

※ 自動バックアップ機能を使用する場合、必ず自動バックアップ先を指定してください。

● **認証ログ保存**

勤怠管理などの応用プログラムからデータを簡単に利用することができるように、テキストファイル形式で認証ログを保存する機能です。

⚠ 自動バックアップ先とログ保存先は、サーバPCにインストールされた「Access Manager」プログラムでのみ設定が可能です。

④ 管理者を登録するために「次へ(N)」をクリックすると登録ウィンドウが開きます。
1名以上の管理者が登録されていれば、プログラムを立ち上げることができます。

● **基本情報**

管理者の基本情報を入力することができます。

● **認証方式設定**

プログラム実行時、またはターミナル出入認証時に指紋、パスワード、RFカード方式をAND組合せまたは、OR組合せで認証することができます。
ただしRFカード方式はターミナル出入認証にのみ該当します。
認証方式によるターミナルの使用法は「*Barrier Control 2000*取扱説明書」を参照してください。

■ **指紋登録**

 PC から指紋認証でプログラムを実行する場合、オプションの指紋認識機マウス(MFDU01)、指紋認証スキャナ (HFDU01)が必要です。

① 認証方式の中で「指紋」をチェックした後「指紋登録」ボタンをクリックするとウィンドウが開きます。

※ 指紋登録をしない場合、手順⑤に進んでください。

※ 指紋認識機の接続法は指紋認識機のマニュアルを参照してください。

【FingKeyマウス】

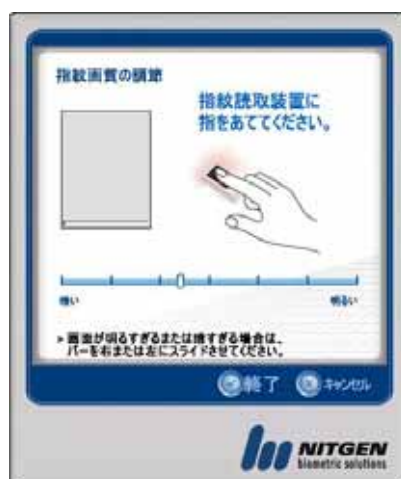
【FingKeyスキャナ】

② 登録する指を選択してください。

③ 選択した指を指紋認識機にあてると、左側にイメージが表示されます。案内メッセージにしたがって指を一度離してから、確認のためもう一度指をあてると、登録が完了します。

※ 初期設定で指の登録数を2に設定した場合、他の指も同じ手順で登録してください。

※ 登録された指を他の指に変更する場合、登録された指をもう一度クリックし登録された指紋データを削除した後、他の指を選択してください。

※ 登録できない場合、明るさを調整してください。「**調整**」をクリックすると次のように設定値調整画面が表示されます。指紋認識機に指をあて、バーで明るさを調整します。指紋のイメージが濃すぎてよく見えないことや、薄すぎることがないように調節してください。

⚠ 指が湿っている場合はイメージが黒く濃く見え、乾燥するほど薄く見えます。正常な指紋の状態が見えるように調整してください。

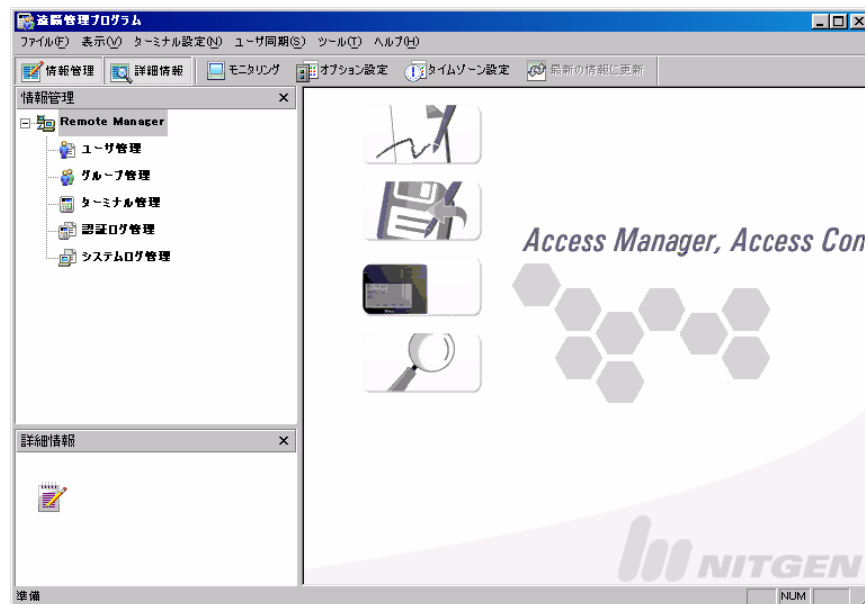
湿っている指紋 (x)

正常な指紋 (O)

乾燥した指紋 (x)

④ 「送信」ボタンをクリックすると、指紋登録手続きが完了し、管理者登録画面に戻ります。

⑤ パスワードを入力し「完了(F)」ボタンをクリックすると、管理者登録が完了し、遠隔管理プログラムの基本画面が表示されます。

4. メニュー設定

■ 画面構成

A:メニューバー

遠隔管理者プログラムの基本メニューです。

- **ファイル(F)**

検索、ユーザ登録、削除、登録情報、再連結、閉じる、のような基本機能を行うことができます。情報管理ウィンドウのメニューまたはリスト選択によって使用することができるメニューがアクティブまたは非アクティブとなって表示されます。

- **表示(V)**

画面構成を選択する機能です。情報管理ウィンドウ、詳細情報ウィンドウをかくしたり、表示したりすることができ、管理メニュー選択によってリストウィンドウを変更することができます。

- **ターミナル設定(N)**

複数のターミナル設定値を一度に変更することができます。

- **ユーザ同期(S)**

サーバのターミナルの情報が違っている場合に同期化することができます。リストウィンドウでターミナルを選択すると、同期と全体同期がアクティブ状態になります。

- **ツール(T)**
  ターミナルモニタリングとサーバオプション設定をすることができます。情報管理ウィンドウで認証ログ管理やシステムログ管理を選択すると、エクセル出力がアクティブ状態になります。

- **ヘルプ(H)**
  プログラムのバージョン情報を確認することができます。

B:ツールバー
よく使用する機能を簡単に探せるように一箇所に集める場所です。
情報管理ウィンドウのメニュー選択によって構成が変更されます。

- **情報管理**
  情報管理ウィンドウを隠したり、表示したりすることができます。

- **詳細情報**
  詳細情報ウィンドウを隠したり、表示したりすることができます。

- **モニタリング**
  遠隔管理モニターを実行することができます。

- **オプション設定**
  プログラムオプションを設定することができます。

- **タイムゾーン設定**
  タイムゾーン時間別、曜日別、休日別に様々な設定ができます。

- **最新の情報に更新**
  変更された情報に従ってリストを更新します。

C:情報管理ウィンドウ

それぞれの管理メニューを選択するウィンドウで、メニューを選択すると関連データが右側のリストウィンドウに表示されます。

マウスの右ボタンをクリックして、詳細メニューを選択することができます。

D:詳細情報ウィンドウ

情報管理ウィンドウからメニューが選択されているとき、該当するデータリストに対する統計情報を表示します。

また、検索ウィンドウに検索条件を入力して、必要な情報を検索することができます。

E:リストウィンドウ

情報管理ウィンドウで選択したメニューのデータリストと、データの関連情報を表示し、該当データをダブルクリックすると詳細情報を見ることができます。

<Shift>キーや<Ctrl>キーを使用すると複数選択することができます。

5．アイコン説明

ターミナルの状態	説明
	正常状態のターミナル
	ユーザ数エラーや同期化リストエラー、タイムゾーンバージョンエラーが発生しているターミナル
	接続されていますが、未登録のターミナル
	未登録のターミナル
	その他エラーが発生しているターミナル

使用者の状態	説明
	一般ユーザ
	プログラム管理者
	訪問者
	期限を過ぎたユーザ
	グループ

ログ状態	説明
	成功した認証ログ
	失敗した認証ログ
	登録、削除などユーザ変更関連のシステムログ
	ターミナル設定変更関連のシステムログ
	プログラム実行及び変更関連システムログ

第4章 プログラム使用方法

1. ターミナル管理

情報管理ウィンドウ内のメニューでターミナル管理を選択し必要な作業をすることができます。

■ 新規ターミナルの登録

ターミナル側でネットワーク設定を完了しネットワークに接続すると、プログラムに接続されているターミナルが表示されます。

登録する方法は以下の通りです。

① 情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択します。

② 右側のリストウィンドウで該当するターミナルをダブルクリックするか、マウスの右ボタンをクリックしてターミナル登録を選択します。

③ 「ターミナル登録ウィザード」ウィンドウが開きます。
ターミナルIDは既に入力されています。
「ターミナル名」と「説明」を入力した後、下のボタン説明を参照して進めてください。

<次へ(N)>	**ターミナルにユーザを追加したり、削除したりする作業を進めます。**
<作成(C)>	**続けて、別のターミナルを登録することができます。**
<閉じる(O)>	**入力された内容をキャンセルしてウィザードウィンドウを閉じます。**

■ ターミナル削除

ターミナルを削除する方法は次の通りです。

① 情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択します。

② リストウィンドウ内で削除するターミナルを選択した後、マウスの右ボタンをクリックして削除を選択するか、キーボードの<Delete>キーを使用して削除します。<Shift>キーまたは<Ctrl>キーを使用すると複数のターミナルを選択して削除することもできます。

■ ターミナル登録情報

登録されたターミナルの基本的な情報を確認することができ、変更することができます。

① 情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択します。

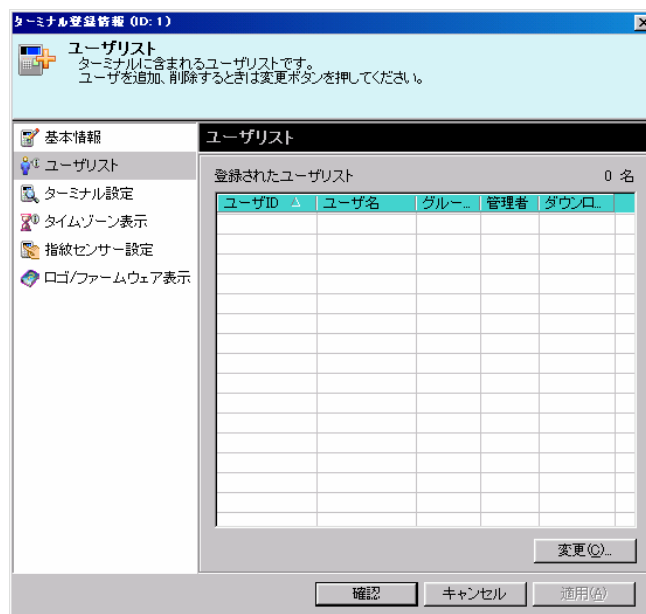
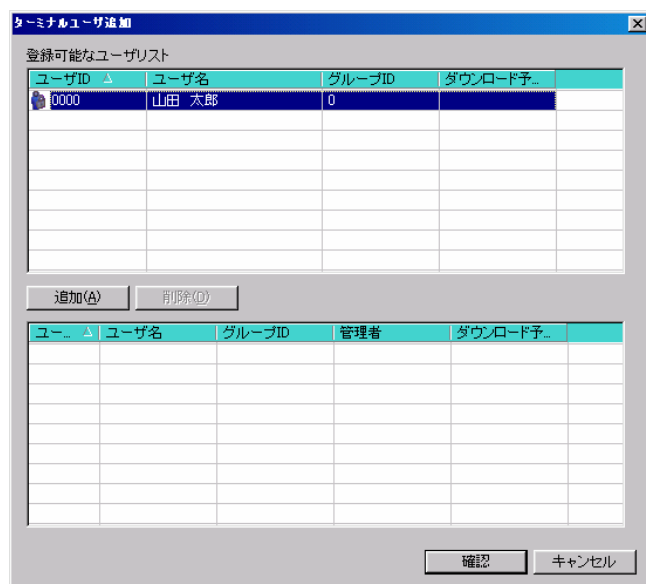
② 右側のリストウィンドウで該当するターミナルを選択し、マウスの右ボタンをクリックして登録情報を選択します。

③ 左側のメニュー選択にしたがって関連情報が表示され、変更が可能です。

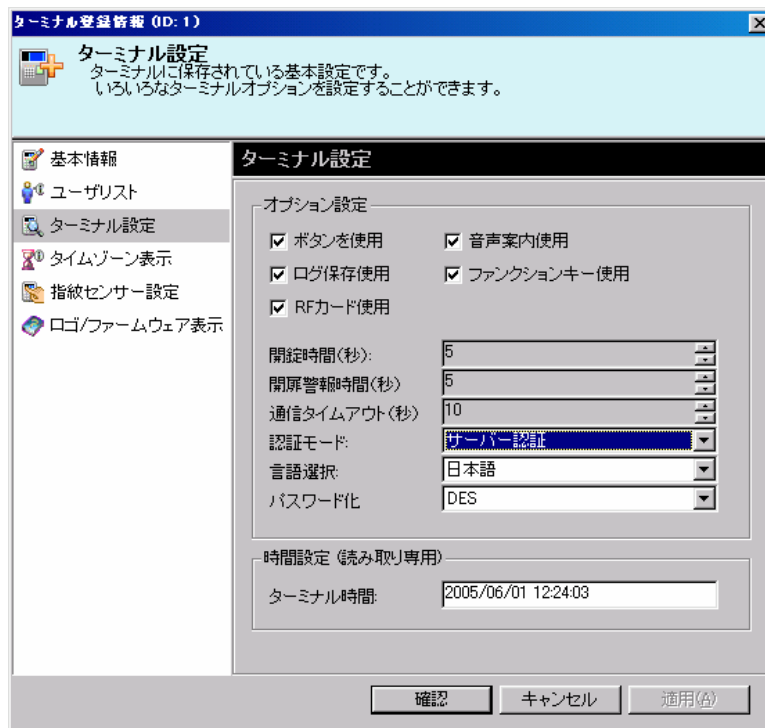
● 基本情報

ターミナルの基本情報を確認することができ、このウィンドウでターミナル名と説明を修正することができます。

● **使用者リスト**

ターミナルに登録されているユーザリストを確認することができ、「変更(C)」をクリックするとユーザをリストに追加及び削除をすることができます。

各ターミナルには必ず１名以上の管理者が指定されていなければなりません。管理者はターミナル本体で全ての設定を変更することができます。

ターミナルにユーザを追加または削除した場合、ユーザ数によっては数秒から数十分まで時間がかかることがあります。この間、ターミナルの動作が制限されますので注意してください。

1.1. ターミナル設定

ターミナルのオプションを変更をすることができます。

● **オプション設定**

- **ボタンを使用**

  ターミナルのボタンを押したときに音を出すか設定します。

- **音声案内使用**

  ターミナルで認証する際、音声で使用方法をアナウンスするかどうかを設定します。

- **ログ保存使用**

  ユーザが出入したログ情報を保存するかどうかを設定します。ネットワークに接続して使用する場合、イベント情報をリアルタイムでサーバに送り、ネットワークに接続しないでターミナルを単体で使用する場合にはターミナル内に保存します。

⚠ 直前イベントからさかのぼって最大30000までのログが保存されます。

● **RF カード使用**

ユーザ認証方法の中で、RFカードの使用可否を設定します。

● **ファンクションキー使用**

ファンクションキー使用を選択すると、ターミナルの機能キー(F1～F4)を勤怠管理などの応用プログラムで使用することができます。

ただし、機能キー使用を選択するとグループ認証機能が使用できなくなります。

● **開錠時間(秒)**

ユーザが認証を行い出入口が開いた後、出入口が開いている時間を設定します。

時間は1～20秒の間で指定できます。

● **開錠警告時間(秒)**

出入口が開錠時間で設定した時間を超過して開いていることを警告して知らせる機能です。

警告音が鳴ったら、ドアが閉じない原因を確認し、正常にドアが閉まるように処置をとってください。

1～20秒の間で設定し、必ず出入口の開門時間以上に設定してください。

 開門時間の設定及び開門警告機能は、出入口のドアの種類によってはサポートできない場合があります。

● **通信タイムアウト(秒)**

ネットワークを通してサーバとターミナル間の通信を行う場合、設定された制限時間内に応答がなければ、ネットワークが接続されていないものとして処理します。

基本値は5秒に設定されていますが、ネットワーク環境に応じて2～20秒の範囲で設定してください。

● 認証モード

- ターミナル認証（NL モード）

  出入認証はターミナル内でユーザ認証をします。各種ログイベントはターミナルに保存せずにサーバPCにリアルタイムで送られます。

- サーバ認証（NS モード）

  出入認証の時の使用者認証をサーバPCで認証します。各種ログイベントはターミナルに保存せずにサーバPCにリアルタイムで送られます。

> ⚠ ターミナルとの通信量が非常に多いと、サーバに過負荷が発生することがあります。サーバとアクセスするターミナル数が多く、認証速度が遅くなる場合、ターミナル認証モード(NL Mode)に設定することをお勧めします。

● 言語選択

ターミナルLCDウィンドウに表示される言語を選択します。英語と日本語が選択できます。

● パスワード化

ターミナルとネットワーク通信で送受信される内容を暗号化するか設定します。

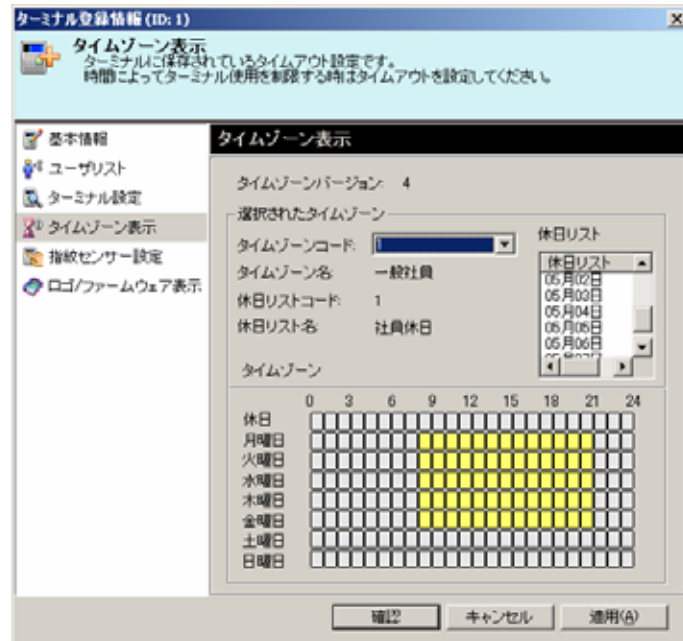
● 時間設定(読み取り専用)

ターミナルの現在時間を表示します。直接ここでは時間を変更することはできません。

- **タイムゾーン表示**

  現在選択されているタイムゾーンを表示します。

  タイムゾーンを変更する場合は、ツールバーのタイムゾーン設定を選択し、変更することができます。

  タイムゾーン設定についての詳しい内容は「第4章6. タイムゾーン設定」を参照してください。

- **タイムゾーンバージョン**

  タイムゾーン設定でタイムゾーンを変更するとバージョンがアップします

  バージョンはターミナルとサーバに保存された情報との同期化に使用されます。

選択されたタイムゾーン

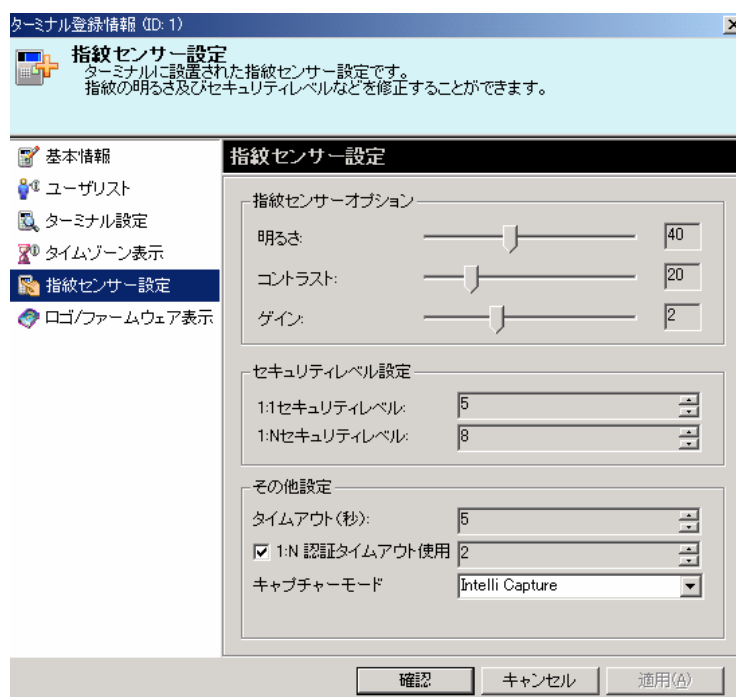
ターミナルではタイムゾーン設定で作成した最大16のタイムゾーン中から、1つのタイムゾーンを選択することができます。タイムゾーンコード選択ボックスからタイムゾーンコードを選択すると、該当タイムゾーンについての情報が表示され、選択されたタイムゾーンでターミナルが動作します。

休日リストは1つのタイムゾーンに1つの休日コードが選することができます。

 タイムゾーンの表の読み方

黄色で表示された部分は認証許容を表し、灰色で表示された部分は認証不可時間を表します。休日が選択されていても、休日リストが指定されていれば、曜日設定と関係なく休日設定が優先に動作します。

1.2. 指紋センサー設定

ターミナル指紋センサーの設定値を環境に合わせて調整することにより、鮮明な指紋イメージを得ることができます。基本設定値はゲイン(2)、明るさ(40)、明暗(20)です。

- ⚠ この設定値はセンサーの性能上、非常に重要な部分で、指紋認識性能に大きく影響を与える可能性があるので、変更せずに基本設定値で使用されることをお勧めします。
- ⚠ 冬など、使用環境が非常に乾燥して認識性能が低下する場合には、明るさの値を20～30(推奨値:20)に調整してください。
- ⚠ 夏など、使用環境が非常に湿度が高く、指紋に対する認識性能が低下する場合には、明るさの値だけを50～80(推奨値：60)に調整してください。

● セキュリティレベル設定

1～9のレベルで設定し、数字が大きいほど保安性が高くなります。1:1セキュリティレベルと1：Nセキュリティレベルがあり、それぞれのセキュリティレベルを設定することでシステムの使用効率を高めることができます。一般的に1:Nのセキュリティレベルを1:1セキュリティレベルより高く設定します。

1:1セキュリティレベルの基本値は5で、1：セキュリティレベルは8です。

※　詳しい説明は「第3章2.　基本設定及び実行」を参照してください。

● その他の設定

- タイムアウト(秒)

  1～30秒の範囲で指紋入力の制限時間を設定することができます。設定された時間だけユーザの指紋入力を受付、時間が経過すると指紋認識LEDが消灯します。

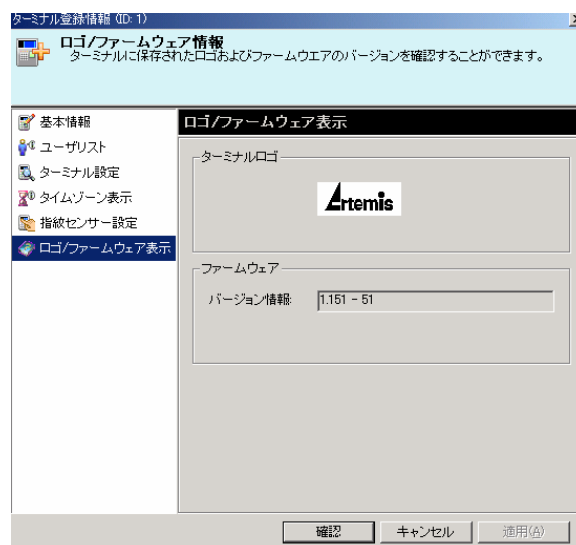
  基本値は5秒です。

- キャプチャーモード

  汗や皮脂などにより、指紋入力ウィンドウに残っている残留指紋による誤認識を防止する機能です。

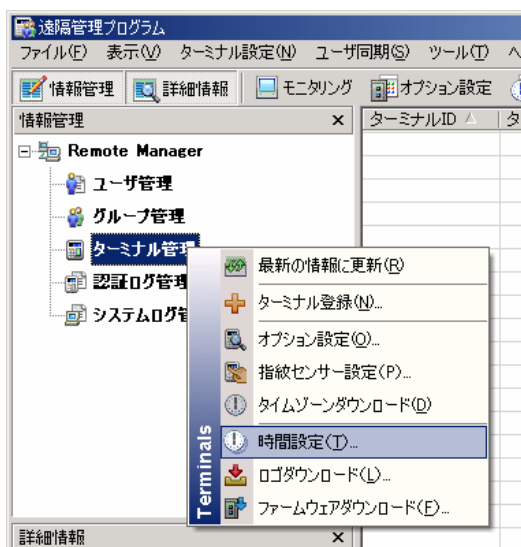
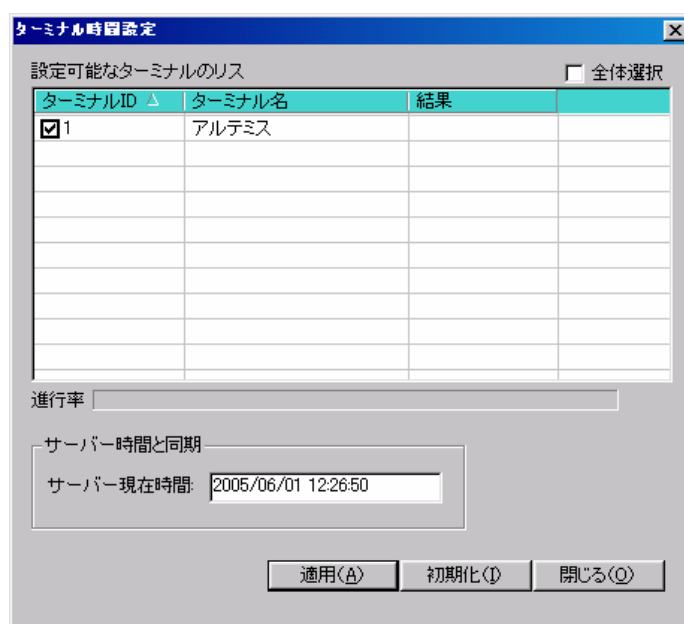
> ⚠ キャプチャーモードを使用する場合、保安性は向上しますが、認証時間が多少長くなります。高い保安性が要求される出入統制機として使用する場合には、この機能を使用してください。保安性よりも使いやすさが要求される勤退管理用などの場合には、迅速な認証のために使用されないことをお勧めします。

● ロゴ/ファームウェア情報

以下の画面でターミナルに保存されたロゴとファームウェアのバージョンを確認することができます。

1.3. ターミナル時間設定

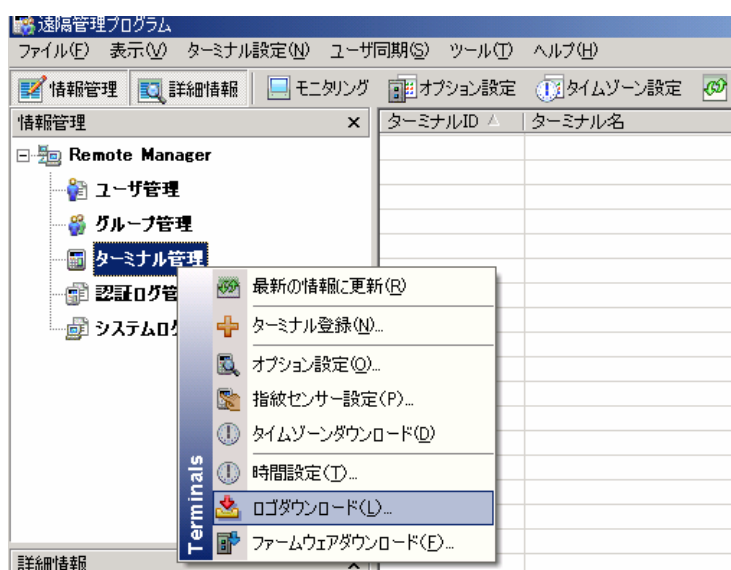
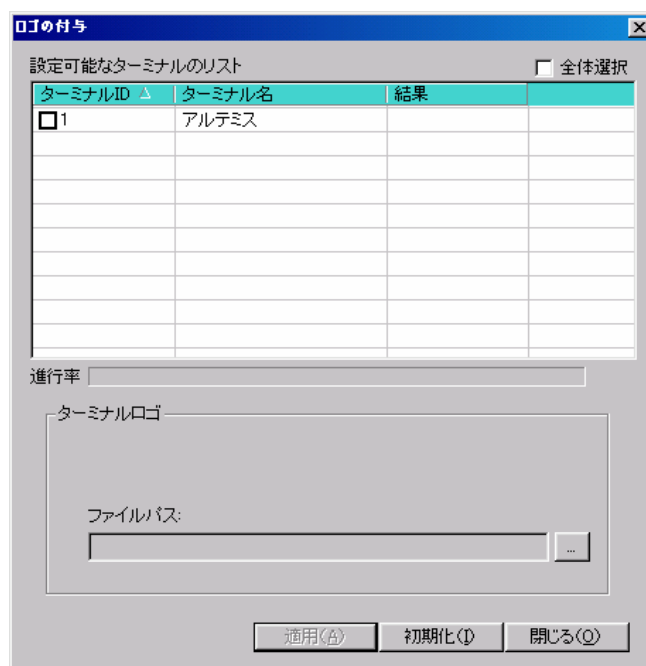
ターミナルの時間はサーバとの接続時に自動的に同期を取りますが、ユーザが直接、同期を取らせることもできます

① 情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択して、マウスの右ボタンをクリックしてメニューから時間設定を選択すると、ターミナル時間設定ウィンドウが現れます。

※ リストウィンドウでターミナルを選択し、マウスの右ボタンを押した後、メニューから時間設定を選択する事も可能です。

② サーバの時間と同期化するターミナルを選択した後「適用(A)」ボタンをクリックすると現在のサーバ時間とターミナルの時間が合います。

1.4. ロゴダウンロード

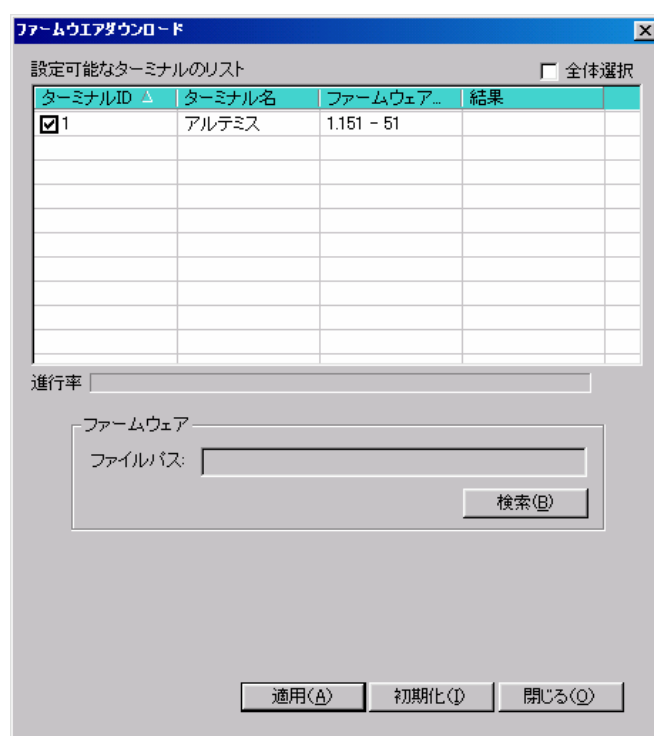
ターミナルに新しいロゴを登録したり、変更したりすることができます。

① 情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択して、マウス右のボタンをクリックします。下位のメニューでロゴダウンロードを選択すると、ロゴダウンロードウィンドウが現れます。

※ リストウィンドウでターミナルを選択し、マウスの右ボタンをクリックして下位メニューからロゴダウンロードを選択することができます。

② 「･･」ボタンをクリックし、ターミナルにダウンロードするロゴファイルの保存先を指定した後、ターミナルを選択して「適用(A)」ボタンをクリックします。
ロゴファイルで使用できるイメージは白黒(2color)、 bmpファイル(*.bmp)だけで、イメージの大きさは横80×縦32ピクセルにしてください。

1.5. ファームウェアダウンロード

ターミナルのファームウェアアップデート時に使用します。

① 情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択し、マウスの右ボタンをクリックしてメニューでファームウェアダウンロードを選択すると、「ファームウェア修正」ウィンドウが現れます。

※ リストウィンドウで設定可能なターミナルを選択し、マウスの右ボタンをクリックした後、メニューでファームウェアダウンロードを選択することができます。

② 「サーチ(B)」ボタンをクリックして、ターミナルにダウンロードするファームウェアファイルの保存先を指定した後、ターミナルを選択し「適用(A)」ボタンをクリックします。

1.6. ターミナルオプション設定

情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択した後、マウスの右ボタンをクリックしてメニューからオプション設定を選択するか、メニューバーのターミナル設定からオプション設定を選択すると、複数のターミナルの設定をまとめて変更することができます。
設定したターミナルを選択して、それぞれの値を変更した後「適用(A)」ボタンをクリックすると、まとめて設定が変更されます。

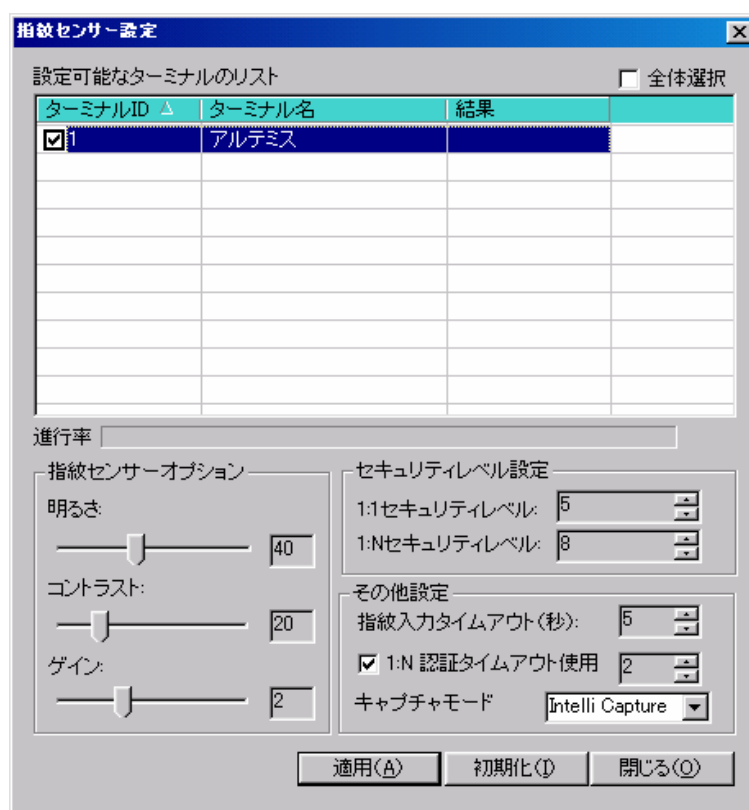
- **オプション設定選択ボックス**

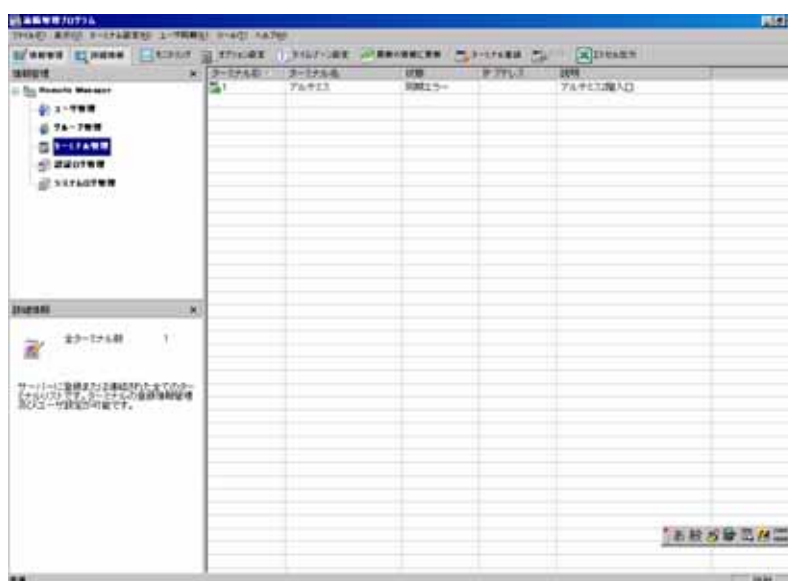
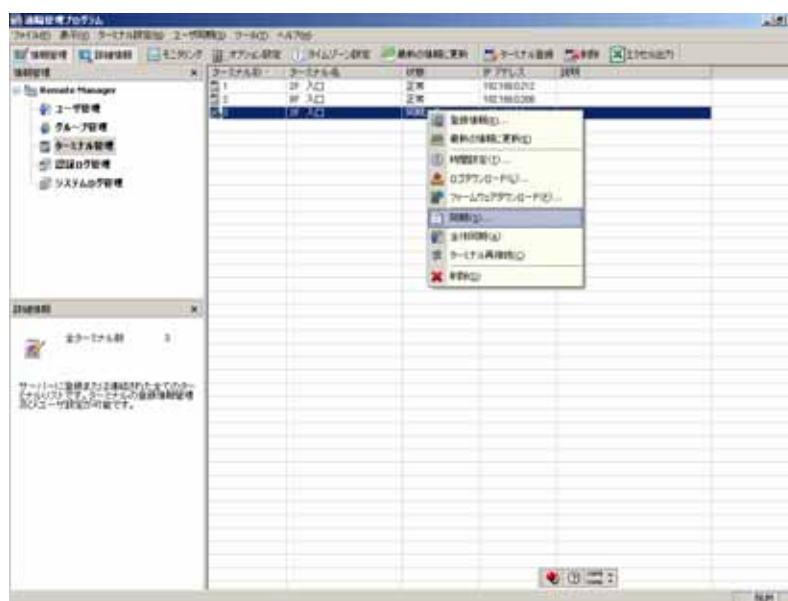
  オプション設定を選択すると、オプション設定の値を変えることができます。

- **タイムゾーンコード設定選択ボックス**

  タイムゾーンコード設定を選択すると、タイムゾーンコードを変えることができます。

■ 指紋センサー設定

情報管理ウィンドウ内のターミナル管理を選択した後、マウスの右ボタンをクリックしてメニューから指紋認識設定を選択するか、メニューバーのターミナル設定で指紋認識設定を選択すると、複数のターミナルの設定をまとめて変更することができます。
変更するターミナルを選択して、それぞれの値を変更した後「適用(A)」ボタンをクリックすると、設定が変更されます。

1.7. 同期化

サーバのユーザグループ及びタイムゾーン情報が変更されると、ターミナルにある情報も一緒に変更されます、ネットワークの問題などによってユーザ情報が一致しない場合、同期化リストのエラーが発生するか、ユーザ数のエラー及び、タイムゾーンのバージョンエラーが発生する可能性があるので、ターミナルとサーバの情報を合わせる機能が同期化です。
同期化のエラーが発生した場合、エラーの内容が画面に表示されます。
同期化のエラーが起きたターミナルを、マウスの右ボタンをクリックすると「同期(S)」という項目がメニューの中に表示されます。

「同期(S)」をクリックします。

- **エラーの内容**

同期化のエラーには次の3つがあります。

ユーザ数エラー	**ターミナルとユーザの数が違う場合。**
同期化リストエラー	**ターミナルとサーバのユーザ情報が違う場合**
タイムゾーンバージョンエラー	**サーバとターミナルのタイムゾーン設定値が違う場合**

- **同期化状態**

同期化エラーの原因が分かるように簡単な情報を提供します。

● 詳細表示

「詳細表示」ボタンを押すと選択したターミナルと関連して、サーバとユーザ情報が同期化されていないリストを見ることができます。また、サーバに登録されたユーザとターミナルに登録されたユーザを比較して見ることもできます。

● **全体リスト**

「全体リスト」ボタンを押すと、全てのユーザと全てのターミナルに対する同期化リストのウィンドウが表示されます。

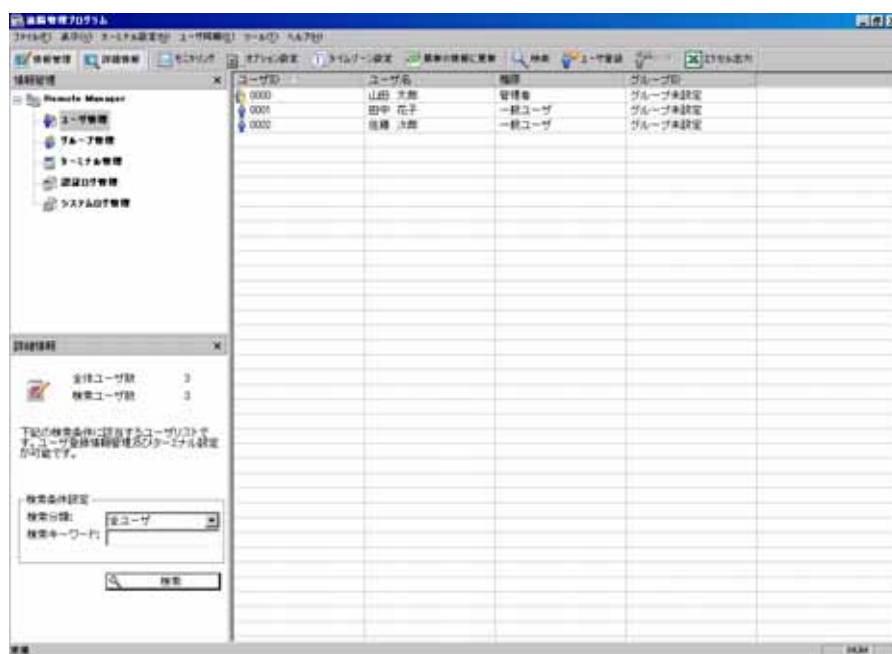
「同期化」ボタンを押すと、リストエラーに対してサーバの内容に合わせてターミナルの内容を修正します。

2. ユーザ管理

2.1. 新規ユーザの登録

新規ユーザに対する基本情報を登録します。

① 情報管理ウィンドウ内の「ユーザ管理」を選択します。

② マウスの右ボタンをクリックしてメニューから「ユーザ登録」を選択するか、ツールバーで「ユーザ登録」を選択します。

● 基本情報

- **ユーザID**

  決められた桁数のユーザIDを数字で入力します。

※ ユーザIDは任意のIDを入力することができますが、初期設定から変更されていなければ、ユーザIDは、使用されていないIDが自動入力されます。

- **ユーザ名**

  ユーザの名前を入力します。

- **グループ**

  ユーザのグループを選択します。

  ※ グループを先に作成する必要があります。

- **権限**

  管理者、一般ユーザ、訪問者の中から選択します。

- **タイムゾーンコード**

  ユーザが使用できる許容時間を決定するタイムゾーンコード情報を選択します。

  ※ タイムゾーンを先に作成する必要があります。

- 所属

 ユーザの所属情報を入力します。

- 社員番号

 社員番号を入力します。

- 説明

 ユーザに対する簡単な説明を入力します。

- 登録日

 ユーザを登録した日付です。変更することはできません。

- 満了日指定

 出入統制機を使用する期間を決めることができます。満了日を指定した場合、指定した期間が満了した場合、認証ができず、ターミナルに保存されたユーザ情報も削除されます。

● 認識方式の設定

認識方式は指紋、パスワード、RFカードを組み合わせて多様に使用できます。組合せによるターミナル本体での登録手順はターミナルマニュアルを参考にしてください。

指紋

ユーザの指紋を登録した後、出入者の指紋と登録された指紋を比較して認証する方式です。(指紋登録方法は20ページを参照してください。)

パスワード

あらかじめ入力したパスワードで認証する方式です。

4～8文字まで使用することができます。

RFカード

RFカードを使用して認証する方式です。RFカード番号はサイトコードとRFカード番号で構成されています。

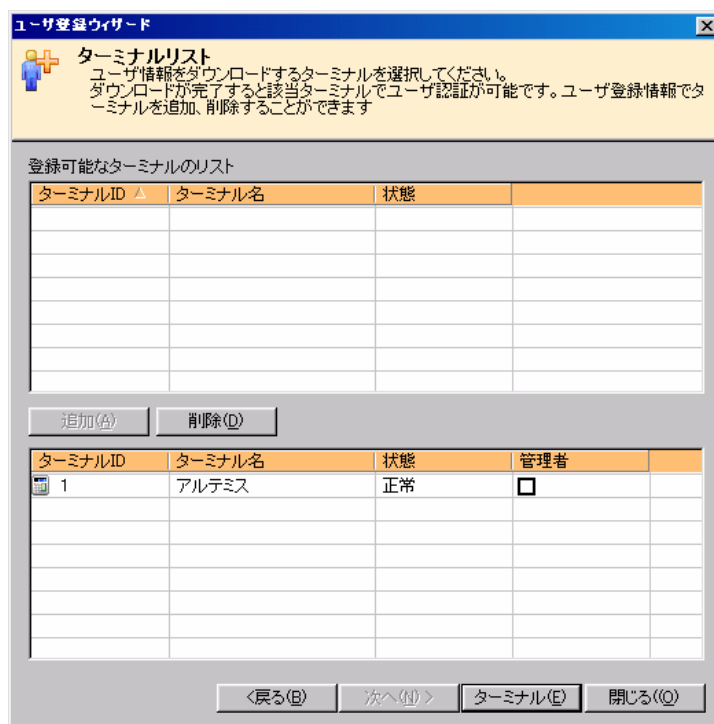
- AND 組合せ

 2つまたは3つで組合された認証手順を順番に認証されれば認証が完了します。

- OR 組合せ

 2つの組合された認証手順の中で、一つだけ認証されれば認証が完了します。

基本情報と認証方式の設定が完了したら、下のボタン説明を参照し次へ進んでください。

<次へ(N)>　　**ユーザをターミナルに追加及び削除する作業を進めます。**
<作成(E)>　　**続けて、別のユーザを登録することができます。**
<閉じる(O)>　　**入力した内容をキャンセルしてウィザードウィンドウを閉じます。**

使用したいターミナルを選択し「追加(A)」ボタンをクリックすると、使用ターミナルが下段に追加され、下段からターミナルを選択した後「削除(D)」ボタンをクリックすると、リストから削除されます。
ターミナルでのユーザ権限をここで管理者に変更することもできます。

<作成(E)>　　**ボタンをクリックすると登録が完了し、もう一度新規ユーザを登録することができます。**
<閉じる(O)>　　**ボタンをクリックすると現時点までの進行がキャンセルされます。**

2.2. ユーザ削除

サーバに登録されているユーザを削除することができます。
ターミナルがネットワークに接続されていればターミナルに登録してあるユーザ情報も一緒に削除されます。サーバからは削除しないで、ターミナル側で削除する場合は、ターミナル登録情報の使用者リストメニューから削除してください。

ユーザを削除する方法は次の通りです。

① 情報管理ウィンドウ内のユーザ管理を選択します。

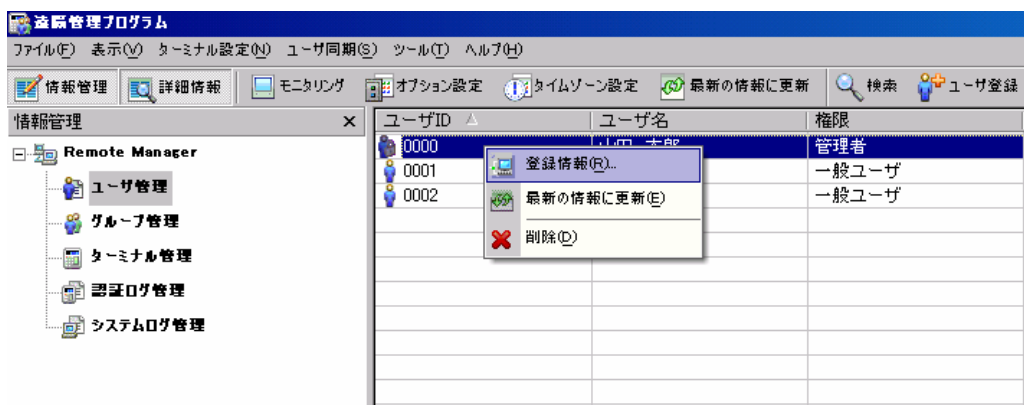
② リストウィンドウから削除するユーザを選択した後、ツールバーにある削除ボタンを選択するか、キーボードの<Delete>キーで削除することができます。
マウスの右ボタンを押して下位メニューから削除を選択してもよいです。

③ 多数のユーザを削除する場合に、リストウィンドウで<Shift>キーや<Ctrl>キーを利用すると、複数名を選択することができます。

■ ユーザ登録情報の確認/変更

ユーザに対する基本情報と使用が許可されたターミナルを確認、又は変更することができます。

① 情報管理ウィンドウ内のユーザ管理を選択します。

② リストウィンドウで該当するユーザをダブルクリックするか、マウスの右ボタンをクリックした後、登録情報を選択します。

③ ユーザ登録情報ウィンドウ内の基本情報を変更することができます。使用が許可されたターミナルを変更するときは、左側のメニューからターミナルリストを選択してください。

④ 以降の手順は、ユーザ登録と同様の手順となります。

2.3. ユーザ検索

DBに多くのユーザが登録されている場合は、検索することによって特定のユーザを簡単に見つけだすことができます。
ユーザを検索する方法は以下の通りです。検索結果はリストウィンドウで確認できます。

① 情報管理ウィンドウ内のユーザ管理を選択します。

② ツールバーに詳細情報ボタンが押されていれば、下段の「詳細情報」ウィンドウで検索をすることができます。またはツールバーで検索ボタンをクリックするとユーザ検索ウィンドウが実行されます。

● **検索分類**

全ユーザ、ユーザID、ユーザ名、グループID、ターミナルIDなどで検索条件を多様に指定することができます。

● **検索キーワード**

検索分類条件によってID又は名前を入力します。

3. グループ管理

新規グループの登録や削除をすることができます。
グループごとにユーザの追加や削除ができます。

■ 新規グループの登録

① 情報管理ウィンドウ内のグループ管理を選択します。

② マウスの右ボタンをクリックして、メニューからグループ登録を選択するか、ツールバーからグループ登録ボタンをクリックします。

③ グループIDとグループ名、説明を入力後「次へ(N)」ボタンをクリックします。

④ グループにユーザを追加又は削除ができます。

※　登録可能なユーザリストとして、登録済みユーザでグループに所属していないユーザの一覧が表示されます。

※　グループ登録済みユーザのグループ変更は、個別にユーザ基本情報から変更してください。

<作成(C)>　　ボタンをクリックすると登録が完了し、繰り返し新規グループ登録をすることができます。

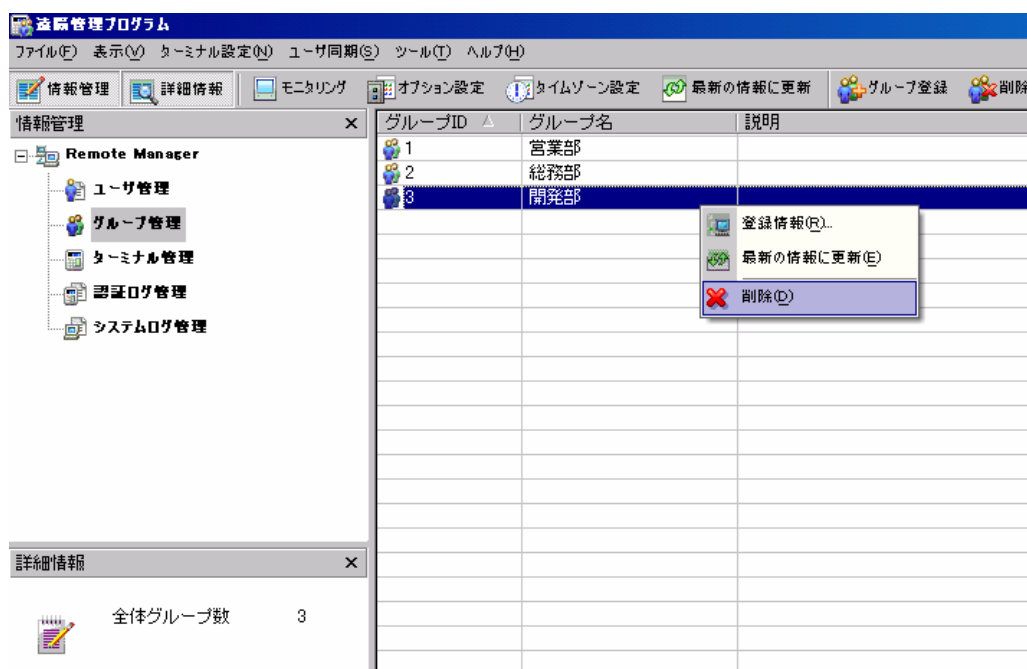
<閉じる(O)>　　ボタンをクリックすると、現時点までの進行がキャンセルされます。

■ グループの削除

登録済みグループを削除することができます。

① 情報管理ウィンドウ内のグループ管理を選択します。

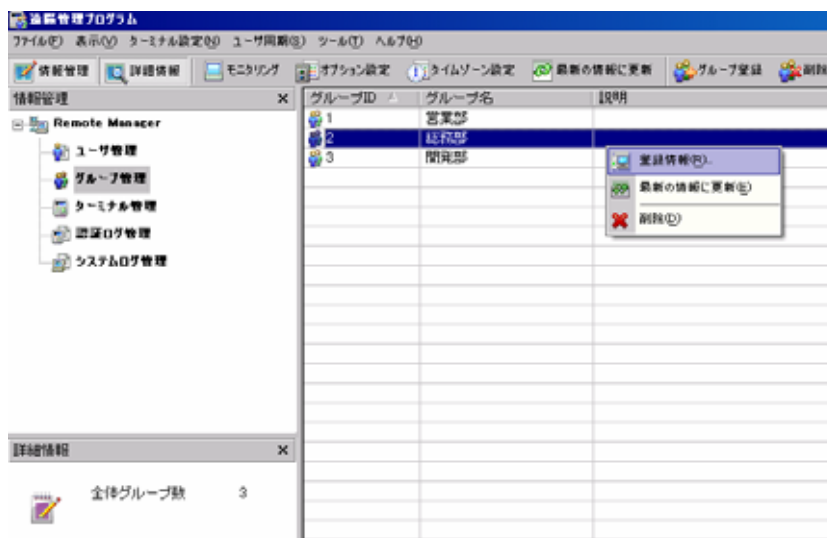
② リストウィンドウで削除するグループを選択した後、 ツールバーにある削除ボタンを選択します。またキーボードの<Delete>キーで削除することもできます。

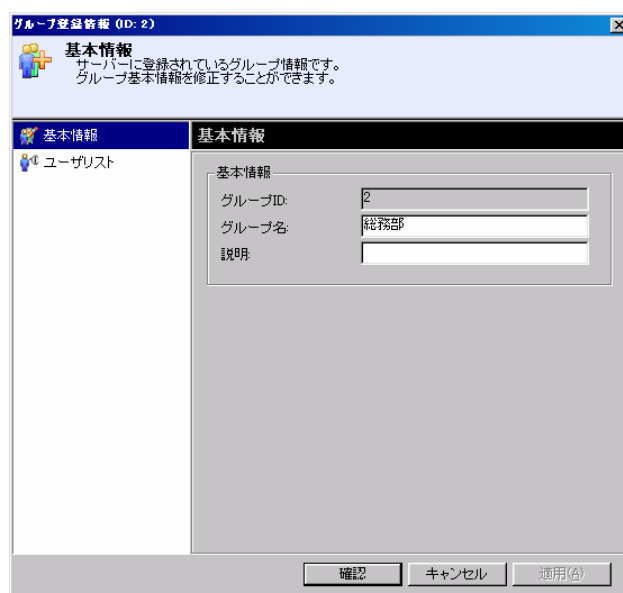
③ マウスの右ボタンをクリックして、メニューから削除(D)を選択することでも削除できます。

多数のグループを削除する場合には、リストウィンドウで<Shift>キーや<Ctrl>キーを利用すれば複数のグループを選択することができます。

■ グループ登録情報の確認/修正

グループの基本情報と所属しているユーザを確認、または変更ができます。

① 情報管理ウィンドウでグループ管理を選択します。

② リストウィンドウで該当グループをダブルクリックするか、マウスの右ボタンをクリックした後「登録情報(R)」を選択します。

③ 「グループ登録情報」ウィンドウで基本情報を変更することができます。グループにユーザの追加や削除をする場合は、左側のメニューからユーザリストを選択してください。

④ 以降の手順は、グループ登録手続きと同様の手順となります。

4. ログ管理

■ 認証ログ管理

ターミナル出入認証情報を確認し、管理することができます。

● 認証ログ情報

認証ログ情報を確認する方法は、検索結果のリストウィンドウで確認することができます。

① 情報管理ウィンドウで認証ログ管理を選択します。

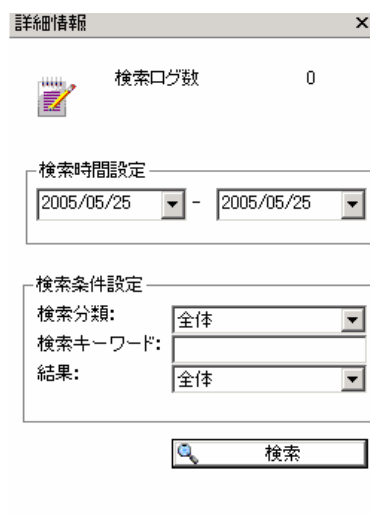
② リストウィンドウで認証ログ情報を確認することができます。

③ 詳細情報を見るには該当ログをダブルクリックするか、マウスの右ボタンをクリックして、メニューから「登録情報」を選択します。

● **ファイル(エクセル)出力**

ログ情報をエクセルファイル形式で保存することができます。

① 情報管理ウィンドウで「認証ログ管理」を選択します。

② マウスの右ボタンをクリックして、メニューから「エクセル出力」を選択するかツールバーで「エクセル出力」を選択します。

③ 保存するフォルダを指定して、ファイルの名前を入力した後、「保存」ボタンをクリックすると完了します。

● **認証ログ検索**

ログ情報が多い場合、次のような方法で検索することができます。

① 情報管理ウィンドウ内の認証ログ管理を選択します。

② ツールバーで詳細情報ボタンが押されていれば、下段の「**詳細情報**」ウィンドウで検索を実行することができます。ツールバーの検索ボタンをクリックすると「**認証ログ検索**」ウィンドウが実行されます。

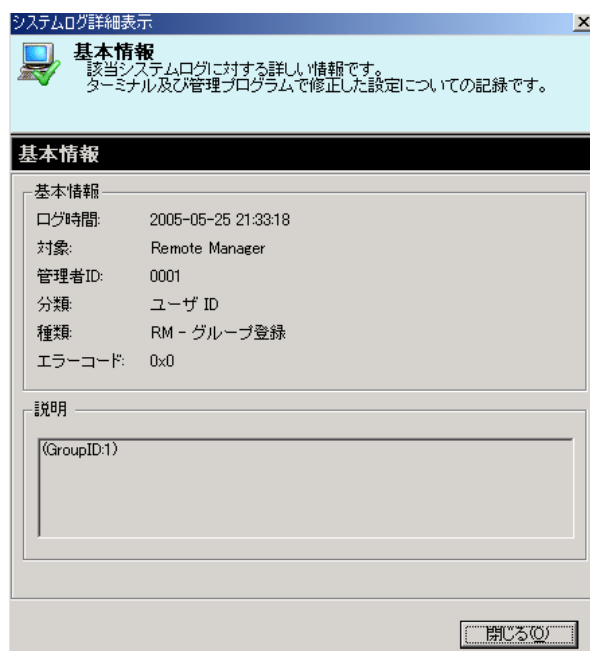
■ システムログ管理

プログラム実行と関連したシステムログに関するログ情報を見ることができます。

● システムログ情報

① 情報管理ウィンドウ内の「システムログ管理」を選択します。

② リストウィンドウでシステムログ情報を確認することができます。

③ 詳細情報を見るには該当のログをダブルクリックするか、マウスの右ボタンをクリックしてメニューから「登録情報」を選択します。

● **ファイル(エクセル)出力**

ログ情報をエクセルファイル形式で保存することができます。

① **情報管理ウィンドウ内の「システムログ管理」を選択します。**

② **マウスの右ボタンをクリックしてメニューから「エクセル出力」を選択するか、ツールバーから「エクセル出力」を選択します。**

③ **保存するフォルダを指定して、ファイルの名前を入力した後「保存」ボタンをクリックすると完了します。**

● **システムログ検索**

ログ情報が多い場合、次のような方法で検索することができます。検索結果はリストウィンドウで確認することができます。

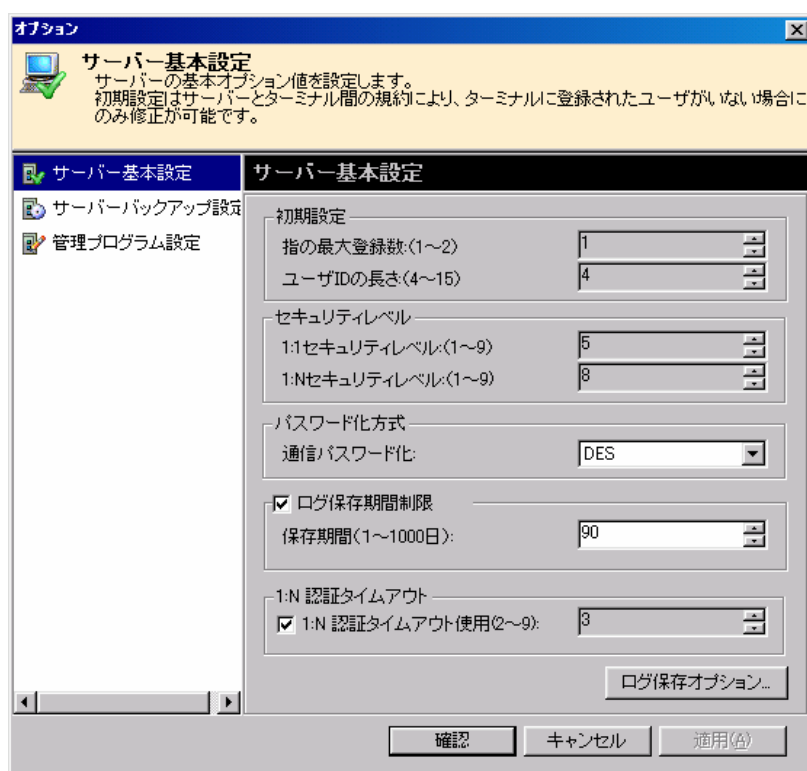
① **情報管理ウィンドウ内のシステムログ管理を選択します。**

② **ツールバーで詳細情報ボタンが押されていれば、下段の「詳細情報」ウィンドウで検索を実行することができます。ツールバーの検索ボタンをクリックすると「システムログ検索」ウィンドウが実行されます。**

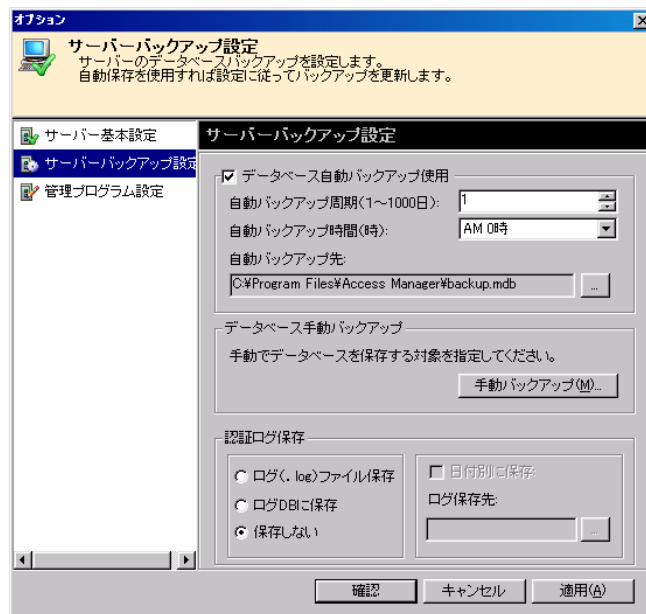
5. プログラムオプション

プログラム初期設定時に設定した値を確認及び、変更ができます。
メニューバーのツールメニューでオプション設定を選択するか、ツールバーでオプション設定ボタンをクリックするとオプションウィンドウが開きます。

■ サーバ基本設定

オプションウィンドウでサーバの基本設定値を見ることができます。

 指の最大登録数やユーザIDの長さを変更する場合、ターミナルに登録されたユーザを全て削除した後で、ユーザを再度登録してください。

5.1. サーババックアップ設定

オプションウィンドウの左側のメニューから「サーババックアップ設定」を選択します。
設定値についての詳しい説明は「第3章2. 基本設定及び実行」を参照してください。

サーバのインストール先に DB というフォルダが存在し、サーバのデータはこのフォルダ内に保存されます。DB フォルダに存在する 4 ファイル名とその説明を記載します。

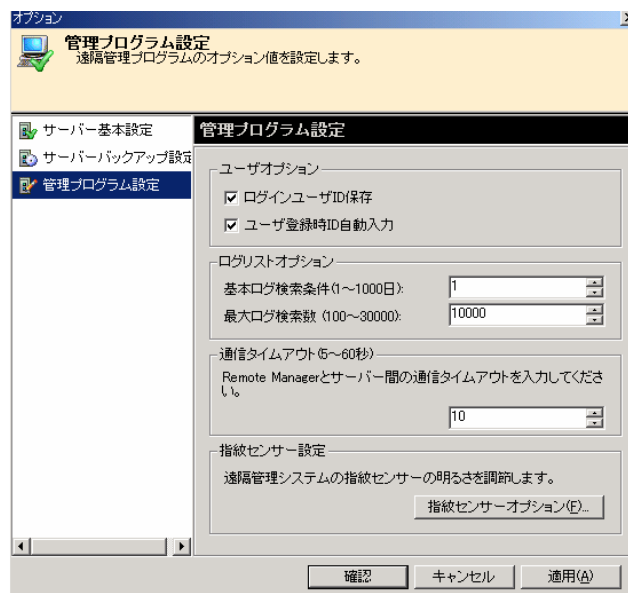
- NITGENDBAC.ldb：一時ファイル。
- NITGENDBAC.mdb：各種設定やユーザ情報を含むメインデータベース。
- NITGENDBAC_EXT.ldb：一時ファイル。
- NITGENDBAC_EXT.mdb：ログを管理するデータベース。

サーバのバックアップとは、サーバが使用するメインデータベースが壊れた場合を想定した保険です。定期的にバックアップを取ることでメインデータベースが壊れた場合の被害を最小限に抑えることが出来ます。

バックアップされるデータベース名はデフォルトで DBBackup.mdb です。
NITGENDBAC.mdb に問題が生じて Access Manager が異常な動作をする場合は、DBBackup.mdb を NITGENDBAC.mdb に名前を変更して使用します。

 これらのファイルはユーザ及び管理者は直接操作できません。ファイルのバックアップはユーザもしくは管理者が、上記ファイルを個別に管理する必要があります。

5.2. 管理プログラム設定

オプションウィンドウの左側のメニューから「**管理プログラム設定**」を選択します。

- **ユーザオプション**

ログインユーザID保存

プログラムにログインする際、管理者のログインIDを自動的に入力する機能です。

ユーザ登録時ID自動入力

ユーザを登録した後に次のユーザを続けて登録する場合、1ずつ増えた値でIDを自動作成します

- **ログリストオプション**

A:基本ログ検索条件

基本検索期間を決めることができます。検索期間を変更しない時は、リストウィンドウには決められた期間までのログのみ表示されます。

B:最大ログ検索数

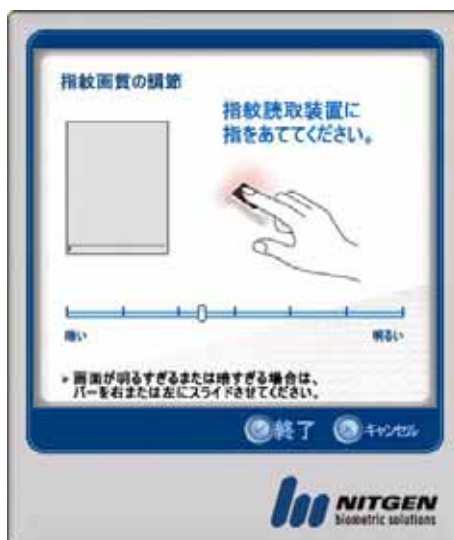
リストウィンドウに表示されるログ数を100～30,000まで設定することができます。

- **通信タイムアウト(5～60秒)**

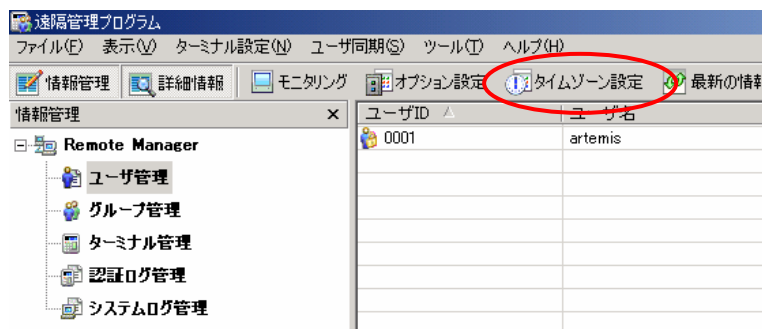
  5～60 秒の範囲で通信タイムアウトを設定することができます。設定した時間内に応答がなければ、ネットワークが接続されていないものとして処理されます。

  ネットワーク環境が安定していない場合は制限時間を長くしてください。

- **指紋センサー設定**

  遠隔管理プログラムで使用する指紋認識装置の明るさを、環境に合わせて調節することによって鮮明なイメージを得ることができます。

6. タイムゾーンの設定

ターミナルやユーザの利用制限時間の設定をタイムゾーン設定を通して行うことができます。

① プログラム画面のツールバーでタイムゾーン設定を選択します。

③ タイムゾーン設定ウィンドウが開きます。

設定可能なタイムゾーン16個と休日リスト16個があります。時間領域は休日、月曜日、火曜日などの曜日単位の時間表を備えており、休日リストは30個の日付を登録することができます。各タイムゾーンは16個の休日リスト中から1つ選択することができます。

④ タイムゾーンコードを選択し「タイムゾーン修正」ボタンをクリックします。ゾーン名に任意の名前を付けます。

⑤ 利用時間の制限をかけたい、時間の上にマウスをあて、左クリックで、黄色で表示された部分をなぞり灰色に変更し「確認」ボタンをクリックします。

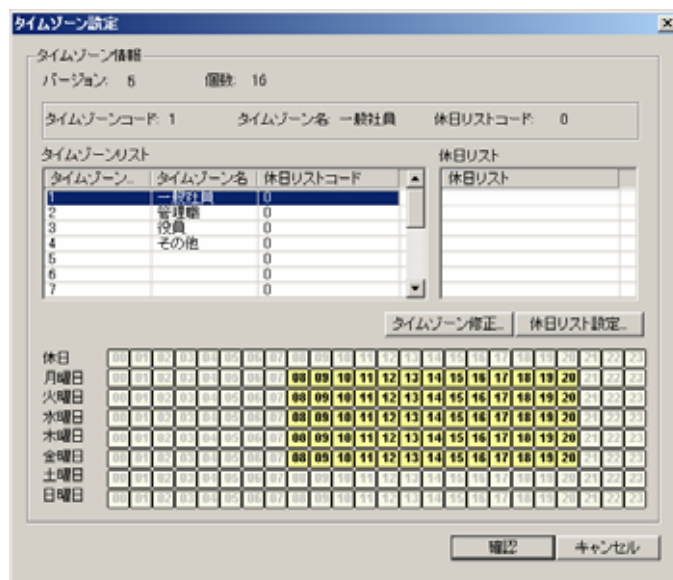
※ 例では、一般社員のタイムゾーンは月曜日から金曜日の8時から20時までの設定を表しています

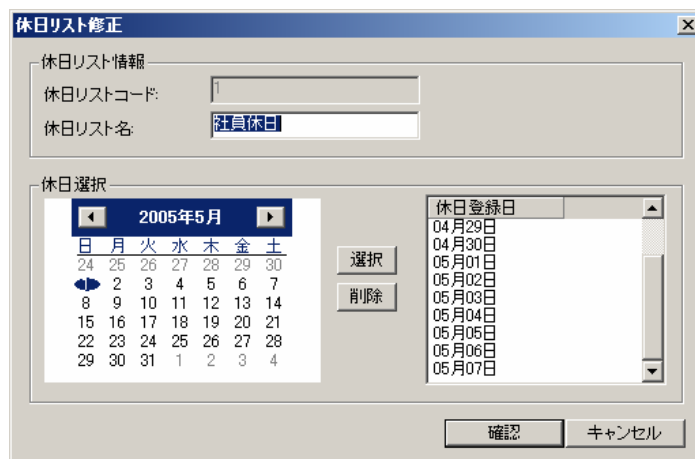
 タイムゾーンの表の読み方

黄色で表示された部分は認証許容を表し、灰色で表示された部分は認証不可時間を表します。休日が選択されていても、休日リストが指定されていれば、曜日設定と関係なく休日設定が優先に動作します。

- **休日リスト修正**

  希望する日付を休日に指定することができます。

① タイムゾーン設定ウィンドウで「休日リスト設定」ボタンをクリックします。

③ 全ての休日リストが表示されます。

休日リスト名を入力し、休日選択ウィンドウで休日を選択し、「選択」ボタンを押すと、休日が選択されます。繰り返して30個までの休日を選択した後「確認」ボタンを押すと休日リストが作成されます。休日リストから日付を削除する場合は、休日の登録日リストから日付を選択した後、「削除」ボタンを押してください。

 タイムゾーンコードの影響を受ける優先順位

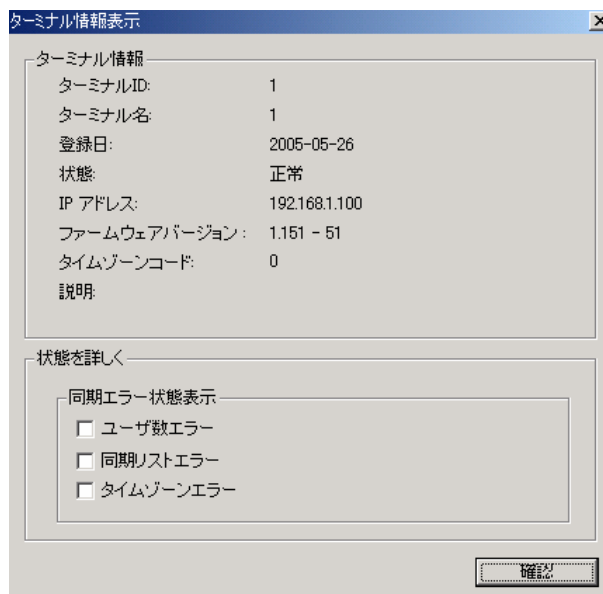
ターミナルに設定されたタイムゾーンの休日＞ターミナルに設定された一般曜日＞ユーザに設定された休日＞用途別に設定された一般曜日

7. ターミナルモニタリング

ターミナルの状態をモニタリングすることができます。「Remote Manager」、「Remote Monitor」プログラムを実行して利用することができます。

① 「Remote Manager」でメニューバーのツールメニューから実行するか、「Remote Monitor」を実行すると次のようなウィンドウが開きます。

② 認証ログリストの上ででマウスをダブルクリックすると、詳細情報が開きます。

③ ターミナルリストの上でマウスをダブルクリックすると、詳細情報が開きます。

■ アイコン説明

ターミナルの状態	説明
	正常に動作していて、開いた状態のターミナルです。
	正常に動作していて、閉じた状態のターミナルです。
	ユーザ数のエラーや同期化リストのエラー、タイムゾーンバージョンのエラーが発生していて、開いた状態のターミナルです。
	ユーザ数のエラーや同期化リストのエラー、タイムゾーンバージョンのエラーが発生していて、閉じた状態のターミナルです。
	接続されていますが、未登録のターミナルです。
	接続されていないターミナルです。
	その他エラーが発生しているターミナルです。

 ドアの状態表示機能は出入口の種類によってサポートされないことがあります。このときの状態は常に開いた状態か、常に閉じた状態になります。

■ お問い合わせの前に

- 本書をよくお読みになり、問題が解決できないかどうか、ご確認ください。
- お問い合わせの際にネットワーク構成情報と問題の症状を合わせてお知らせいただくことで、問題の解決が早まることがあります。

【 お問い合わせ窓口 】

アルテミスサポートセンター
TEL　03-3432-1058
FAX　03-3435-9416

月曜日－金曜日（祝祭日を除く） AM9：00－PM5：00

Access Manager 取扱説明書
Ver. 1.7
発行日 2005 年 7 月 1 日
発行責任 株式会社アルテミス